

日本ペスタロッチャー・フレーベル学会 関西地区研究会

日時；平成 22 年 7 月 24 日（土）13 時～16 時 30 分

場所；キャンパス・イノベーションセンター

兵庫教育大学連合大学院大阪サテライト

参加者；宍戸健夫、渡辺満、田岡由美子、松川礼子、劉蓮蘭、澤田真弓、
藤井恵美子

[研究会の主旨]

2009 年秋スタートの日本 PF 学会の課題研究は、テーマを「子育て支援」とすることになった。従来、どちらかという教育理論、教育史的な研究に重点を置いてきた本学会が、時代や社会が求めている重要な課題に取り組んでいくという画期的な研究テーマであり、2012 年に政府が予定している幼保一元化を見据えて「子育て支援」の在り方を学会としてどのように提言していくかを課題としている。

1. メンバーの移動

- ・渡辺満先生が、2010 年 4 月で兵庫教育大学から岡山大学に移動された。武庫川女子学の成山文夫先生が、本務校の業務多忙につき、本課題研究委員会メンバーから身を離れた。
- ・新メンバーが 2 人、兵庫大学の藤井美恵子先生、南海福祉専門学校非常勤の澤田真弓先生。

2. 連絡事項

- ・次回第三回は、9 月 12 日（土）を予定していたが、学会の大会に合わせてその前日の夜ということで、9 月 3 日（金）の 18:00 からに変更。その他は予定通りに実施。

9 月 3 日（金） 石川・酒井 龍谷大学（深草校舎）

12 月 18 日（土） 松川・宍戸 大阪大学中之島センター

2 月 19 日（土） 柏原・澤田 龍谷大学（深草校舎）

3. 研究報告

○田岡由美子「地蔵盆における子どもたちの育ち」

- ・地蔵盆は地獄における死者の救済やその身代わりになる救世主である地蔵菩薩を信仰する人たちが、8 月の 23-24 日に行う祭り。地蔵菩薩は、安産、子育て、夜泣き、賽の河原の子どもたちの庇護といったように子どもたちを守る仏でもある。

- ・京都及び近畿地区では、あの世とこの世の境界線に立って集落を守る道祖神と習合されて、子どもの守護神、集落の守り神として信仰されているケースが多い。地藏盆は、町内単位で行われ、宗教的な側面と子どもの遊び祭りの両面を持っている。
 - ・これを、「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」の中の「地域の人々など自分の生活に関係の深い人たちに親しみを持つ」とあるのに関連付けて検討して見る。
 - ・先行研究としては、民俗学、建築学、教育学の分野からのものがわずかにあるだけである。
- ・地藏盆で子どもたちが経験するのは、地域住民との連帯感、世代間の交流。
文化の継承、想像。
子どもが主役となる楽しさ、異年齢の児童と遊ぶ楽しさ。
日常と非日常、生と死のはざまでの行事を通しての心の充足感、安寧。
宗教的なものとの触れあい。
などがある。
- ・これに対比させて、ドイツのキルメスという教会祭り、転じて子どものための移動遊園地まつり。フレーベルの文章（『フレーベル全集』第3巻 第10章）の中に出てくる「教会の祭り、幼児の祭り」についても対比させて紹介された。後者は、キリスト教で言う「枝の主日」、復活祭の中の祭りである。
- ・今回は、龍谷大学の田岡ゼミ学生が、深草校舎のある砂川地区の地藏盆に出前公演として地藏盆の祭りに参加している場面や、京都の各地区の地藏信仰の実体、また江戸時代の『難波鑑』の挿絵に出てくる地藏盆などが映像でも紹介された。
質疑応答では、近畿地区以外でも兵庫県などでも地藏盆があること。兵庫では学校の教材の中にも地藏盆を取り上げた教材のあること。
地藏盆の風習のある地域と、密教の真言宗の地域とのつながり、道祖神と地藏の関係など、さまざまな指摘や質疑応答がなされた。

○劉蓮蘭「上海の子育て支援についての考察—その一、虹口区こうこうの取り組み」

- ・中国では、幼児教育の価値や幼児教育機関の評価は残念ながら従来はそんなに高くはなかった。中国では、子育て支援は「国のため」子どもを育てる責任と義務を自覚させる働きかけという色彩が根強く、その中でも上海は中国全土でも子育て支援が進んでいる地域とされている。
- ・2002年2月から上海市教育委員会の張民生副主任が、0歳から3歳児までの幼児の早期教育、早期ケアについてのプロジェクトをスタートさせ、全国的にも評価されるモ

デルケースとして注目されている。これは過度の早期教育、不適切な早期教育に対して、健全な早期のケアとはという問題提起である。

- 実践研究の拠点は、上海市の 18 の行政区と 1 つの県の中から、7 行政区を選び、地方都市として江蘇省無錫市の 8 か所を選んで実施されている。今回はその中でも虹口（こうこう）区での 3 歳児までの子育て支援に関する行政の施策や実体を概観的に報告された。ここは上海市の中心部のやや北東エリアに当たる。第二次世界大戦中には日本の租界だった地区である。
- 1999 年まで託児所は、区の商業サービス会社の管轄下にあり、幼稚園は教育局の管轄下に置かれていたが、今回、区は教育の室、人材資源の有効活用のため、「託児所幼稚園一体化行政管理ネットワーク」を構築した。あわせて、乳幼児期の教育指導サービス体系が整備され、区の乳幼児早期教育チームと早期指導センターが整備され、10 か所の早期の着養育センターと 1 か所の特殊教育センターで 260 の居民委員会と、長期滞在戸籍を持つ 8,684 戸の 0 歳～3 歳の乳幼児の家庭を指導することになった。地方から出稼ぎなどの長期滞在戸籍をもっていない家庭は、この恩恵にはあずかれない。出稼ぎ労働者でも一部の人たちは、長期滞在戸籍を持っている。これは一種の臨時の戸籍のようなものである。
- 都市部では、0 歳から 3 歳の乳幼児の 70%は祖父母が面倒を見ている。地方出身者は、そのために田舎から祖父母を呼び寄せることもするが、それには子育て以外の経済的な問題も付きまとうことになる。しかだつて、そのため幼稚園に入れない、入れない子どももいる。その一方ではお手伝いさんのいるような家もある。
虹口地区では、0 歳～3 歳の 20%が託児所に行っている。これを 3 歳から 100%が幼稚園に行く。ただし、それには戸籍がないとダメ。これは日本の保育所と幼稚園を併せ持ったような施設で、午前中は勉強、午後は遊び、ただし、特別に追加で教育費を払うとオプションとして、一部塾のようなコースがあり、英語、ピアノ、テコンドー、水墨画、そろばんなどを習うこともできる。ただし、すべて結局はお金次第。日本の公文や七田式といった幼児教育システムも進出している。人員的には、25 人に 3 人の教員配置が一般的。
しかし、あまりの拝金主義に嫌気を催して、結婚しても子どもを作らないという若いカップルが増えてきている。
- また子育て支援のために増えつつある親子園は、日本の子育て支援センターのような役割も果たすが、かなり異なったもので一番の違いは有料でかなり費用が高いこと。一部には無料のものもなくはない。但し、この施設の基準というものには共通のものはなく、市、区によって異なり、形態も幼稚園に併設されているものから、独立したもの、あるいは施設を借用して、親と子向けの子育て指導の催しといったような恒常的

な施設でも機関でもなく、イベントをさしているケースもある。中国ではまだ子どものしつけの意味するところについて、一般的な共通認識がない。精々、識字、ピアノといった印象程度で、子どもの教育に何が正しいかといったこともあまり深く考えられていないのが現状である。

- この報告は、上海市のいくつかの区のそれぞれの特徴に留意ながら報告されていく研究の一端だとのこと。幼稚園、親子園という日本の関連施設と類似した名称を使いながらも、かなりその内容には違いがあり、そのあたりに質問が集中した。

書記 石川道夫